

図8 B 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関 (口腔外科)

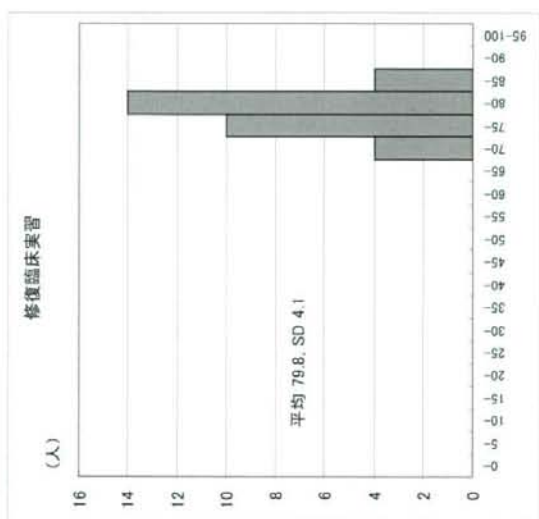
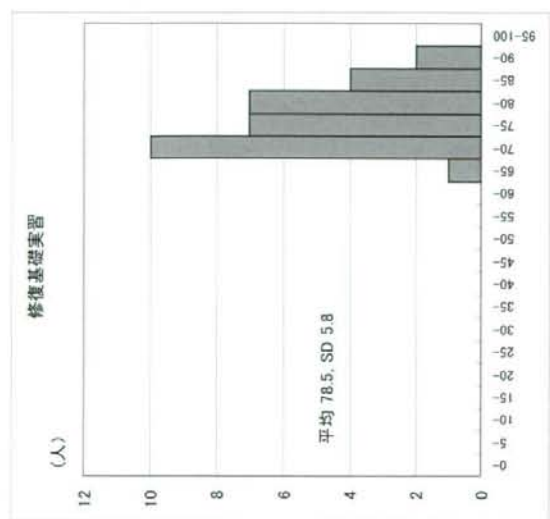
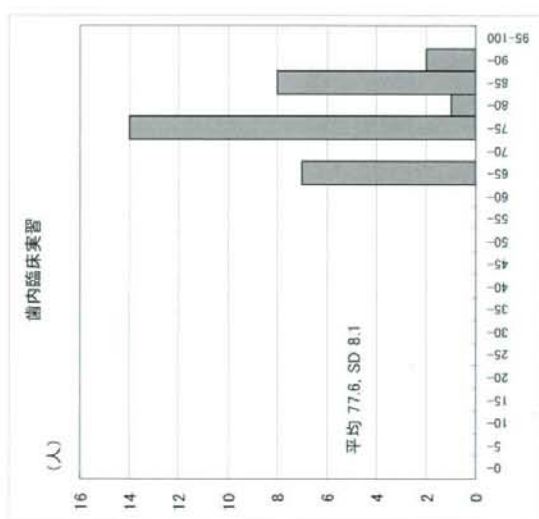
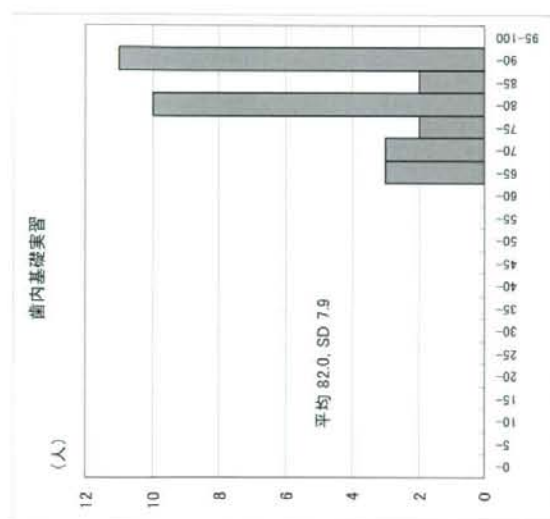
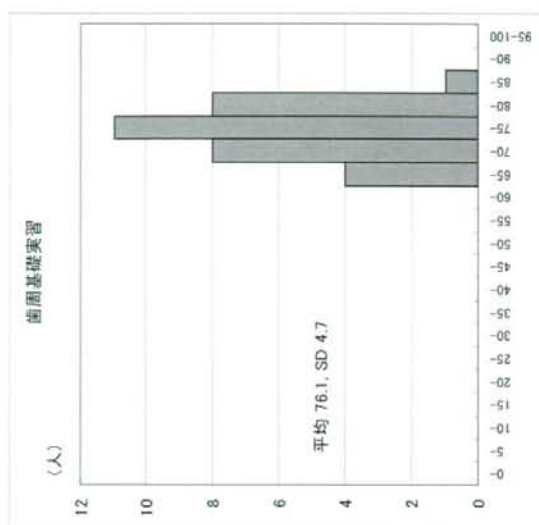
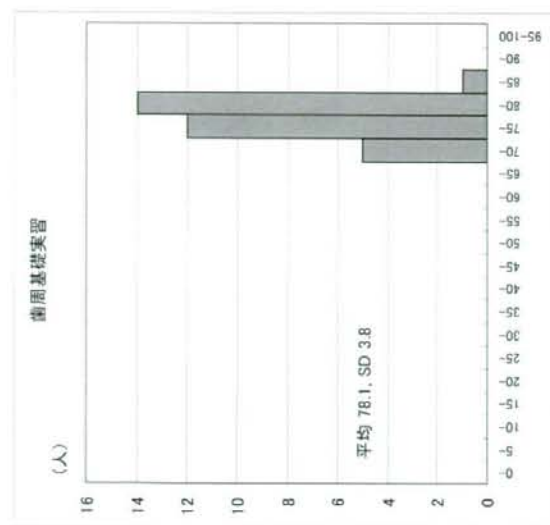


図9 C 大学得点の分布

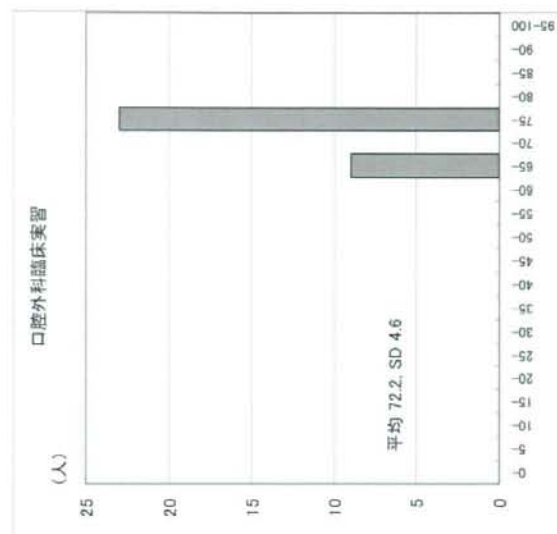
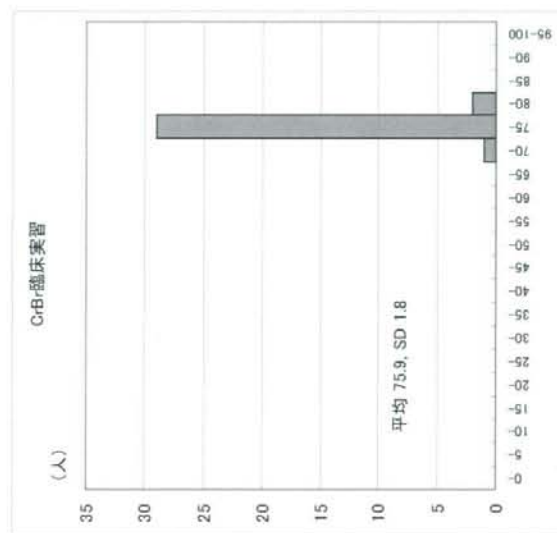
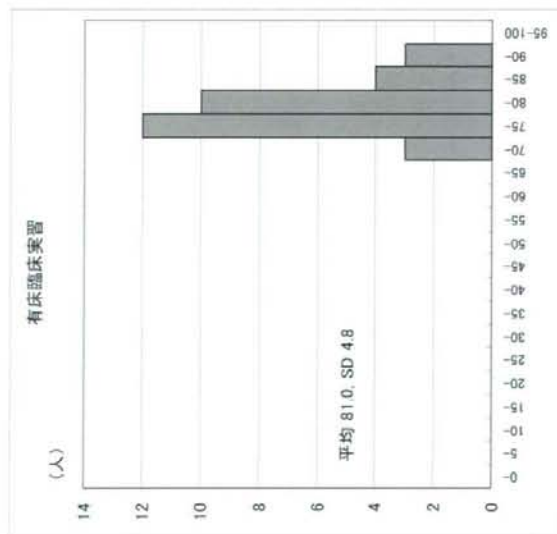
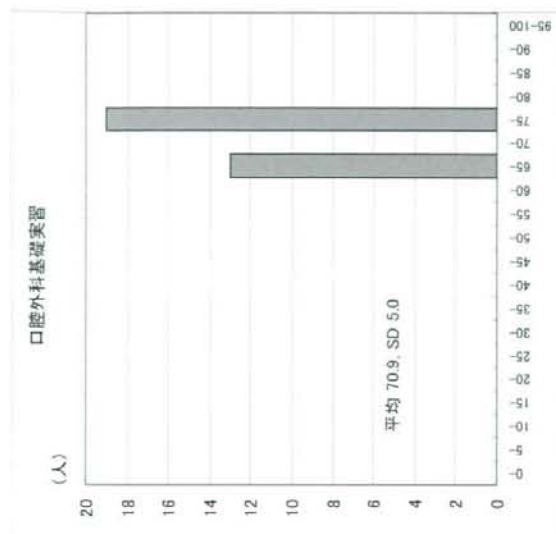
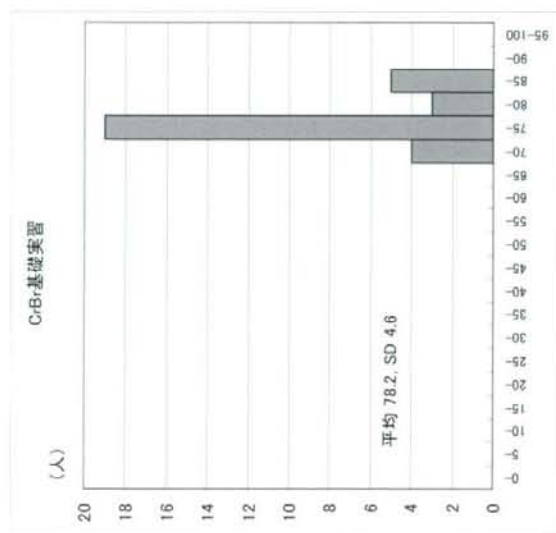
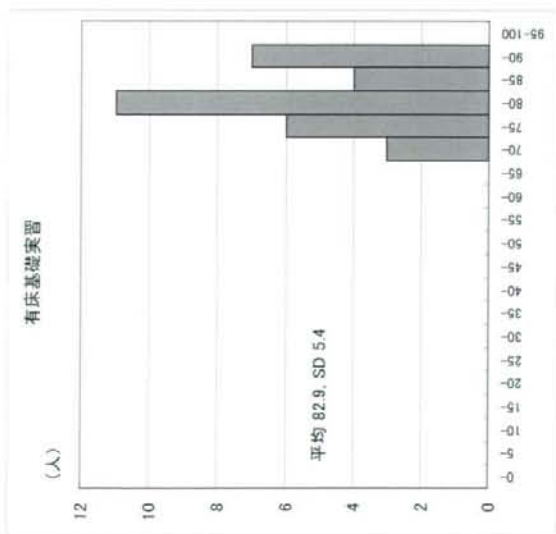


図9 C 大学得点の分布 つづき

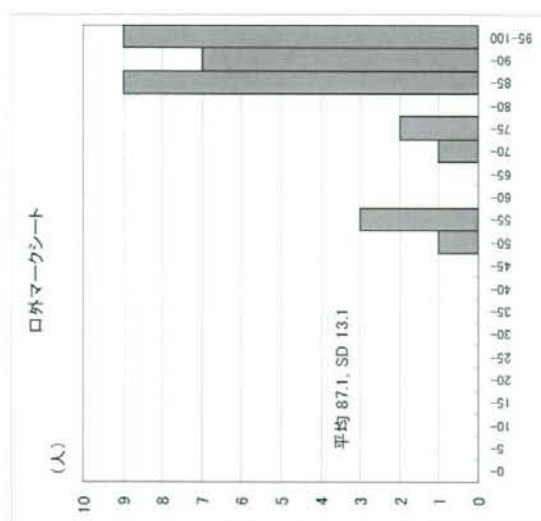
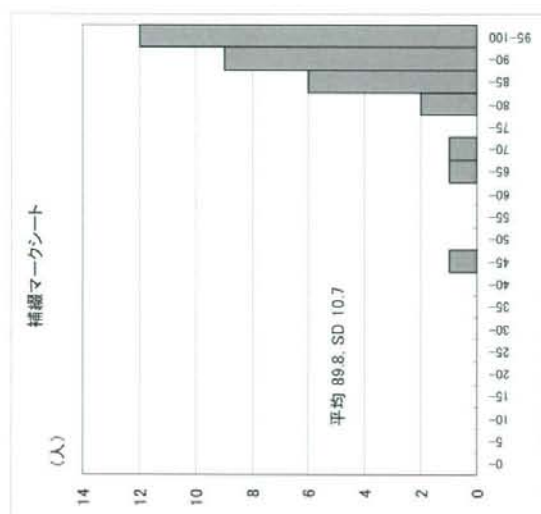
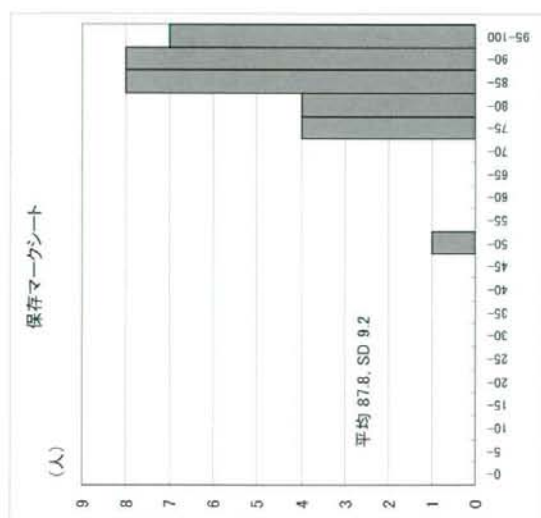


図9 C 大学得点の分布 つづき

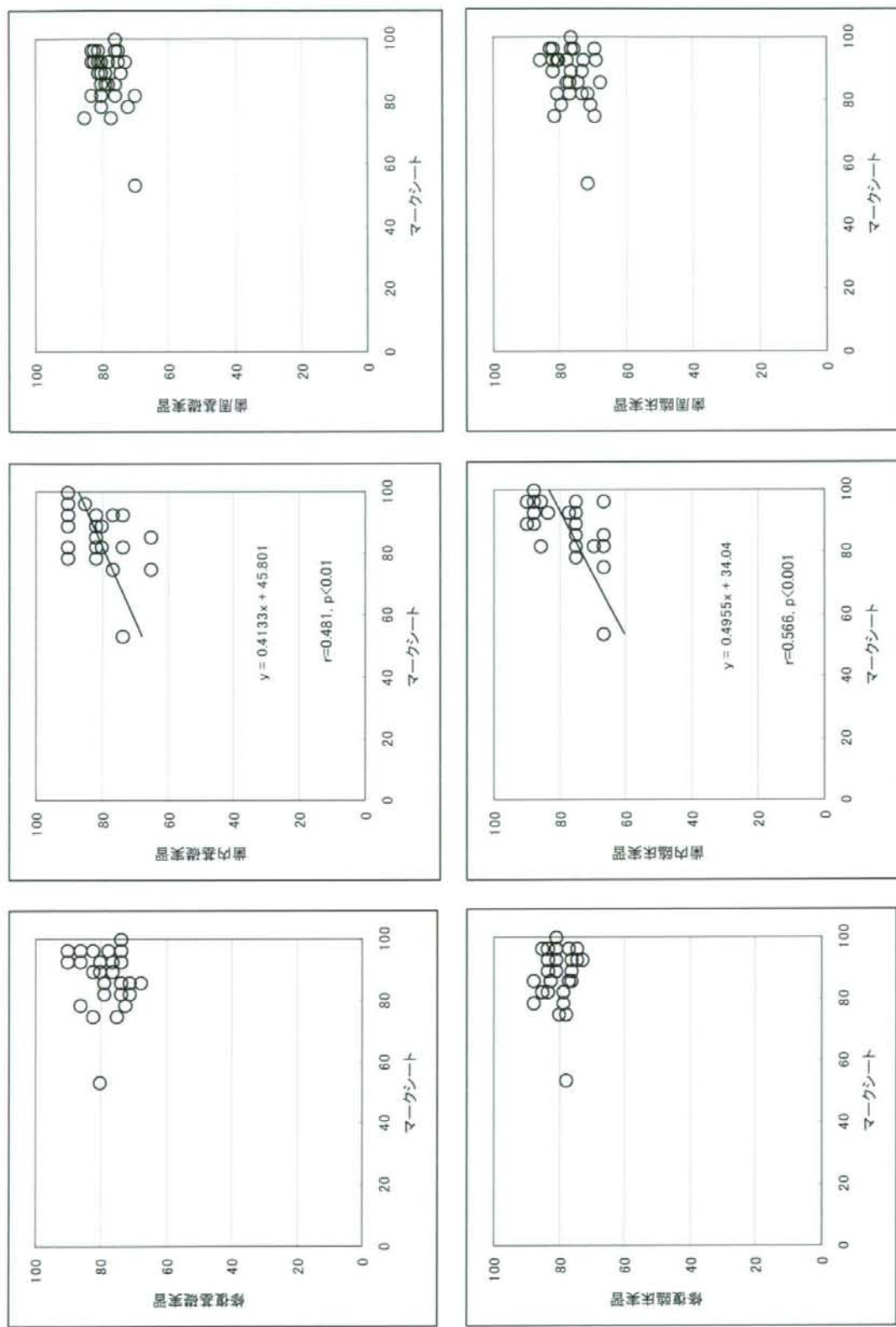


図10 C 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関

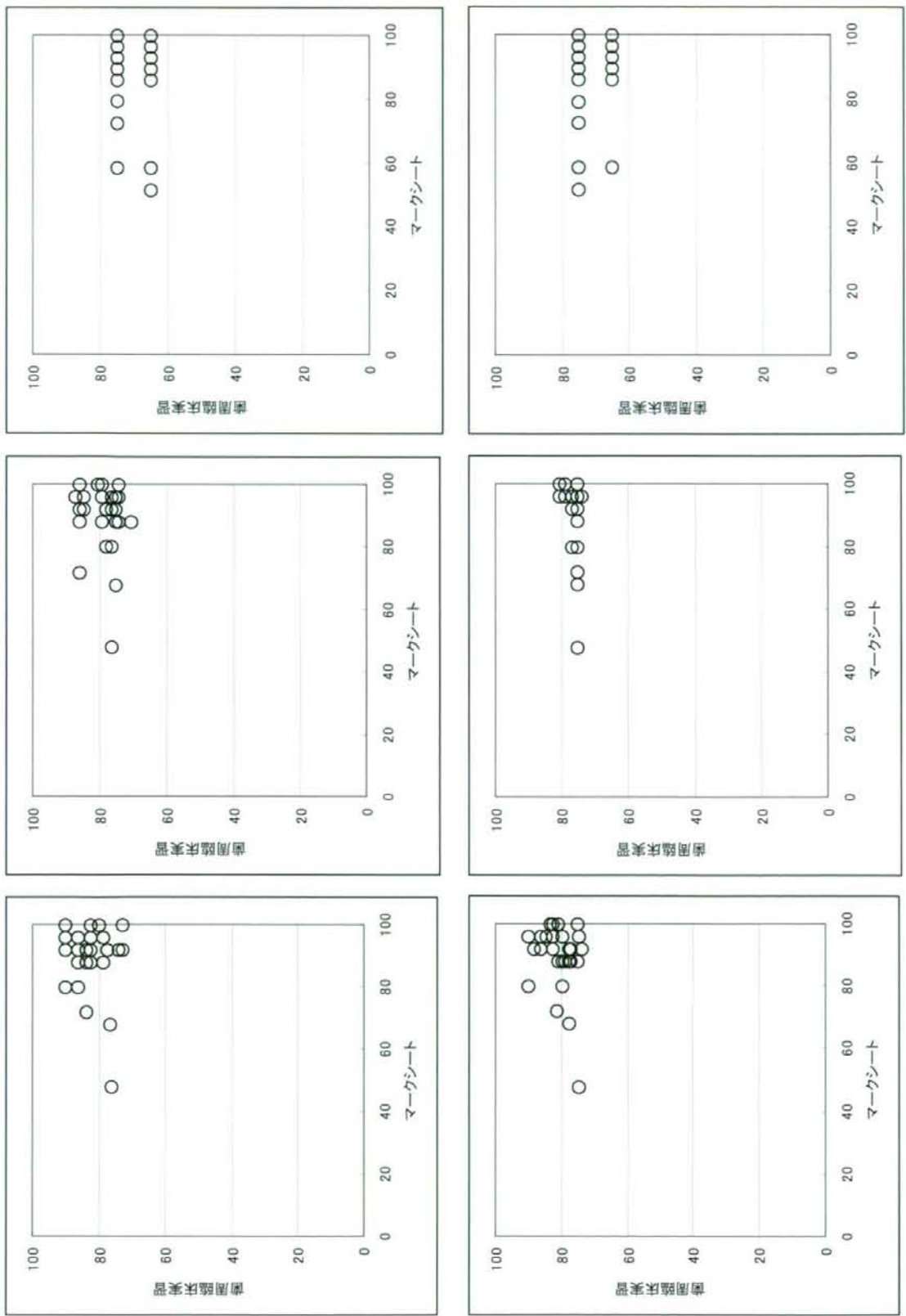


図10 C 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関 つづき

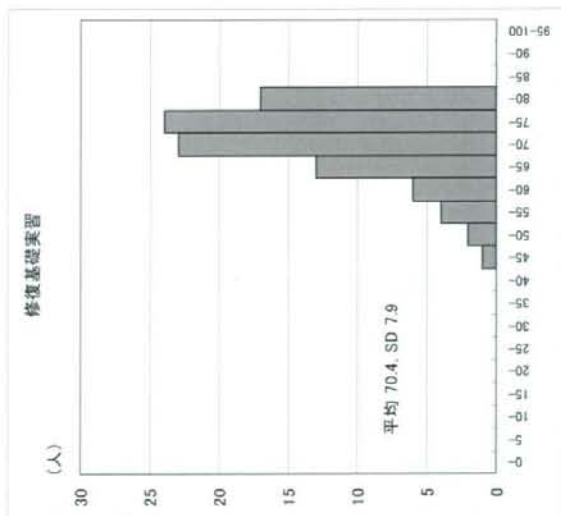
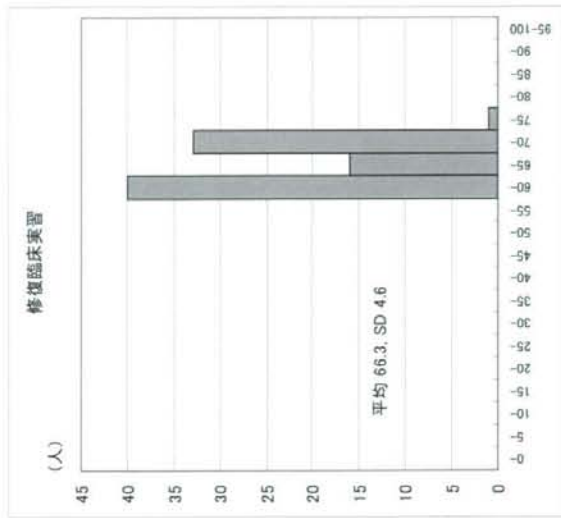
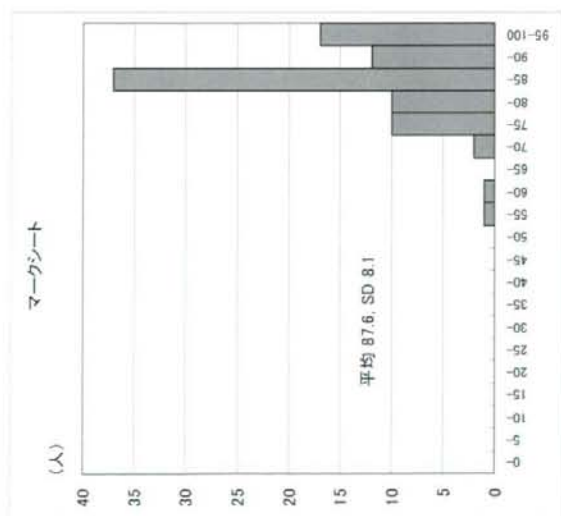
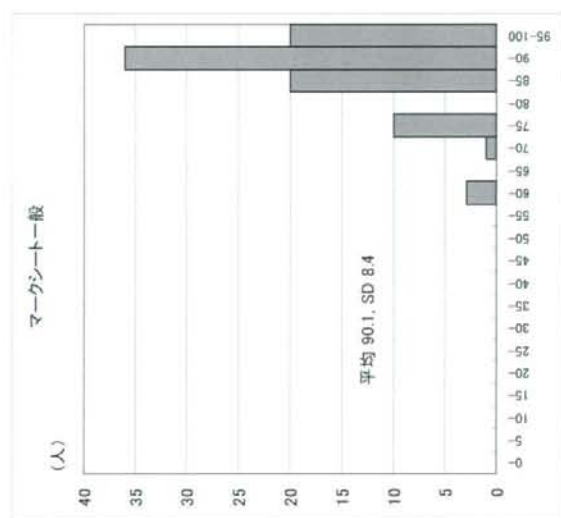
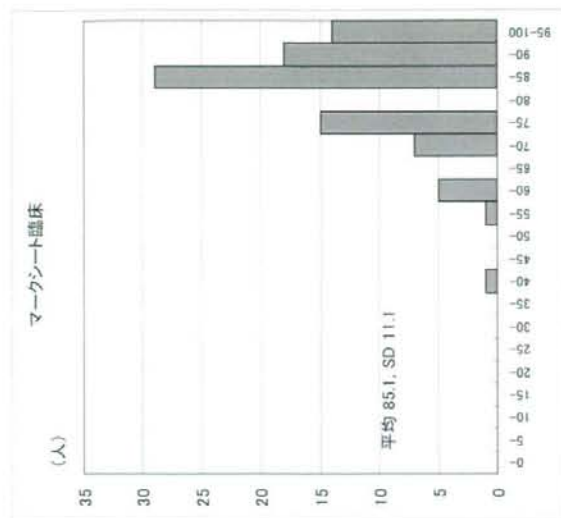


図 1 1 D 大学歯保存科得点の分布

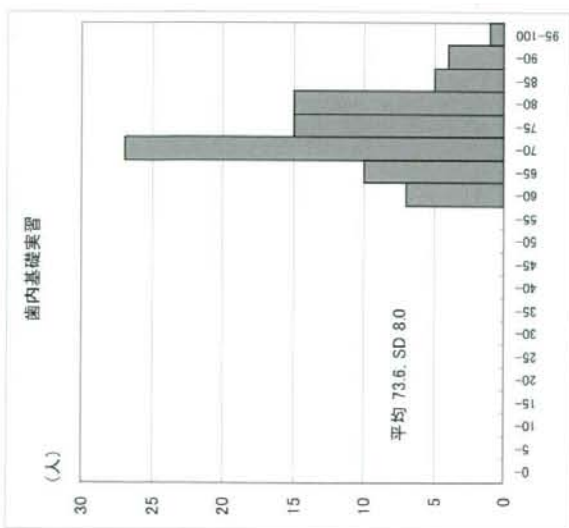
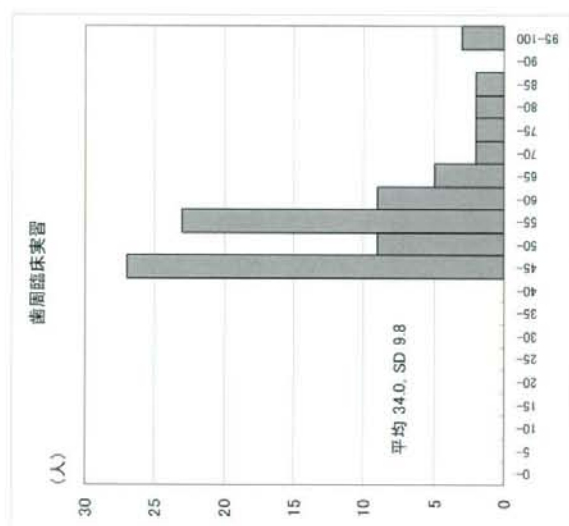
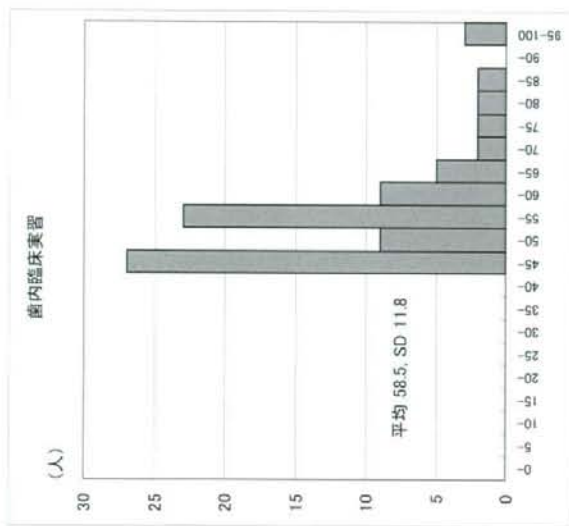
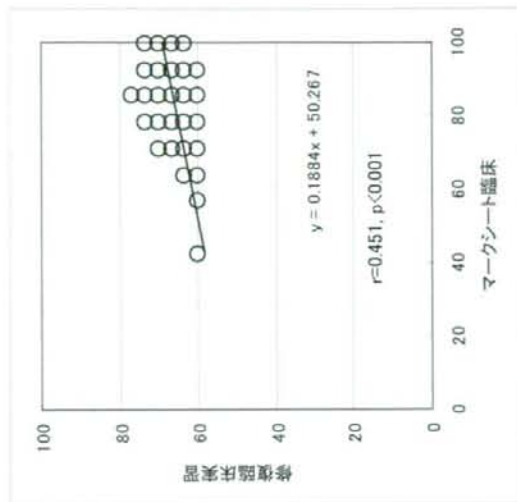
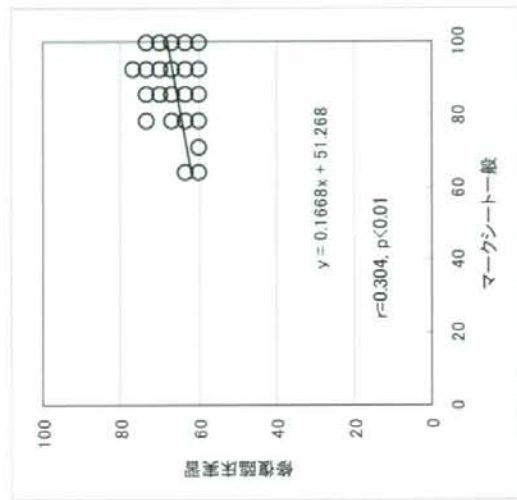
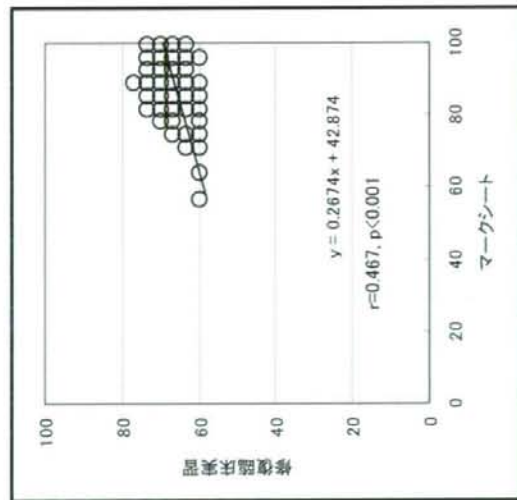
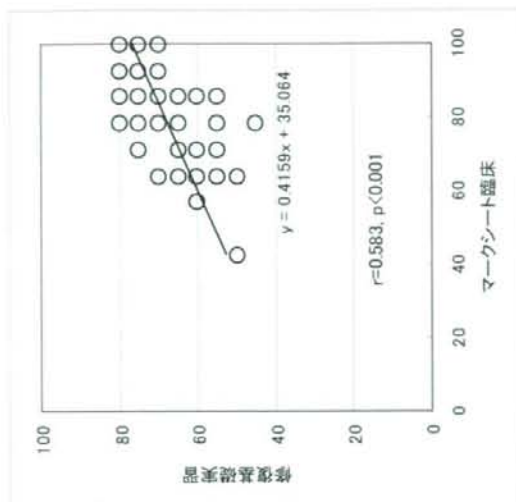
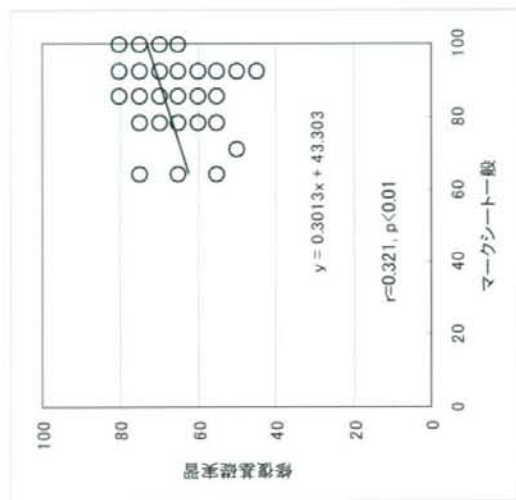
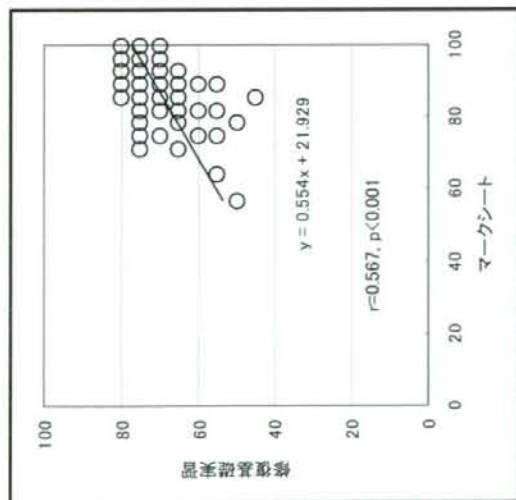


図 1 1 D 大学菌保存科得点の分布 つづき



(保存科)

図 1 2 D 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関

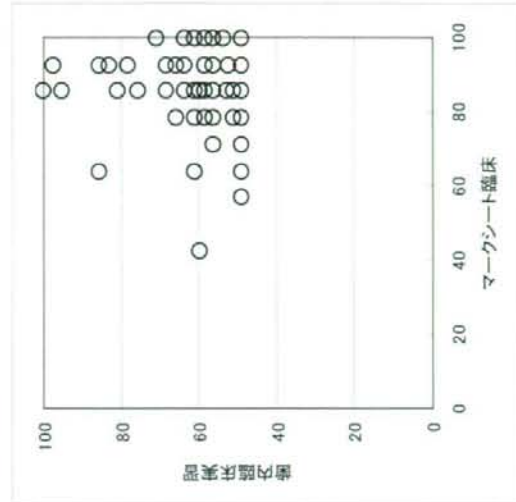
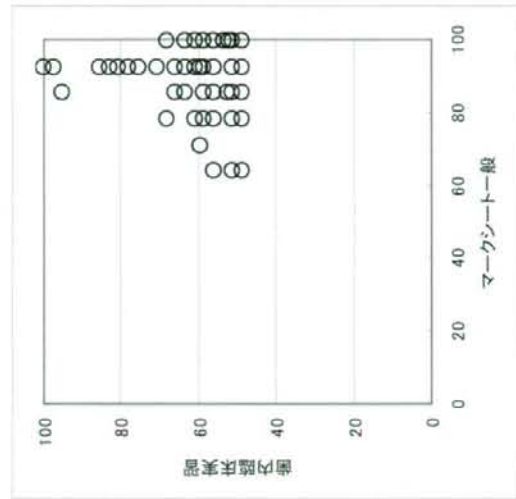
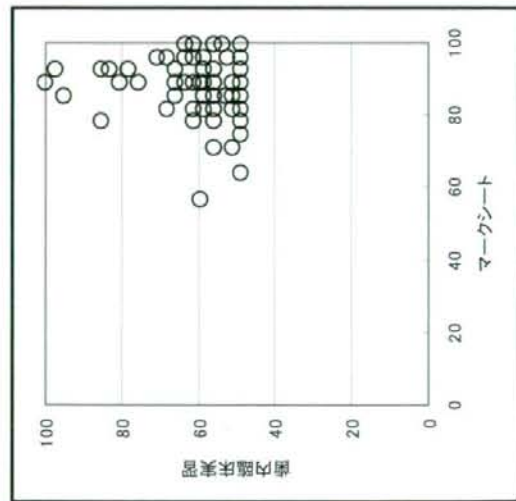
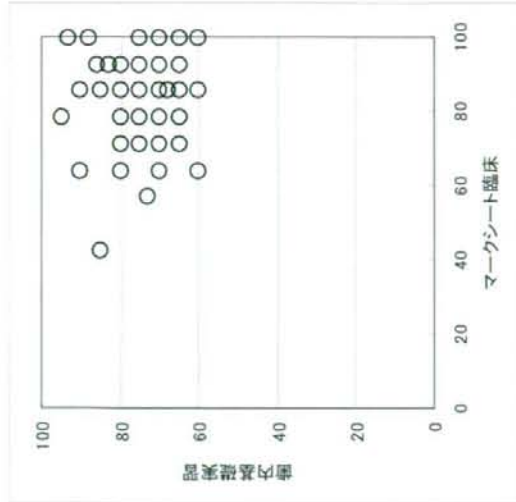
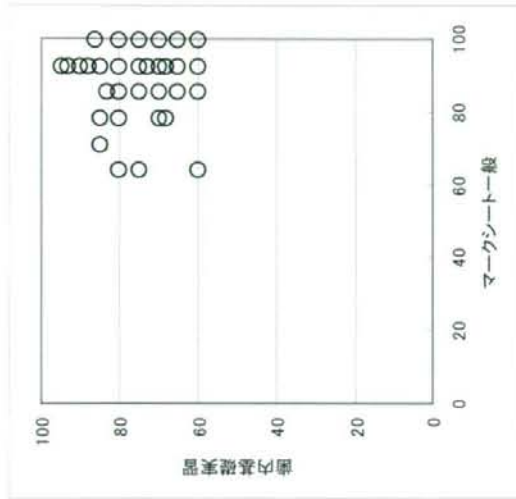
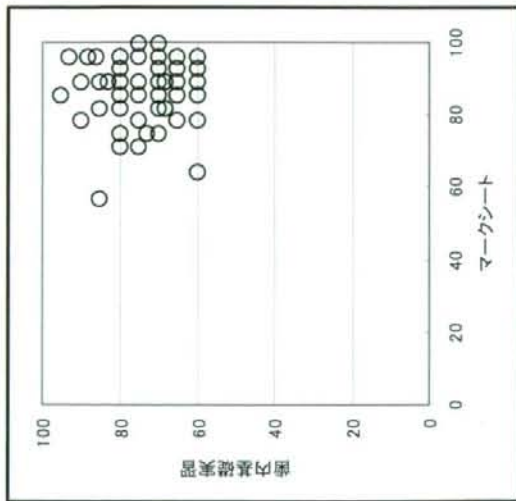


図 1.2. D 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関 (保存科) つづき

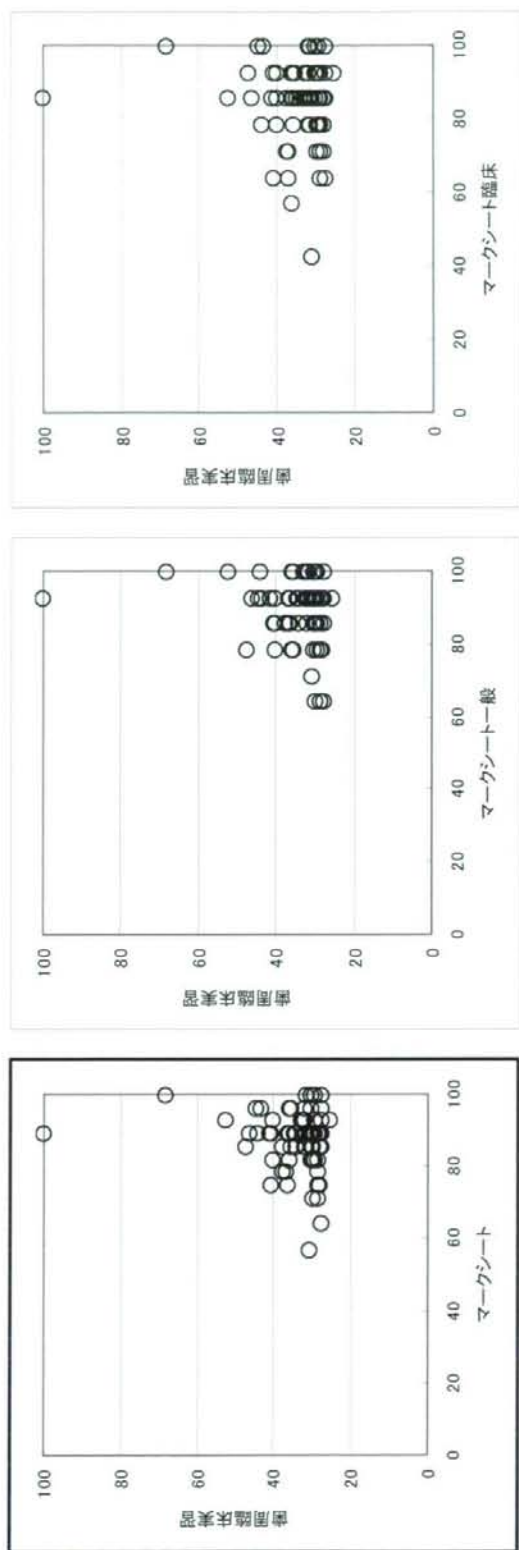


図 1 2 D 大学客観式多肢選択試験と実習成績との相関 (保存科) つづき

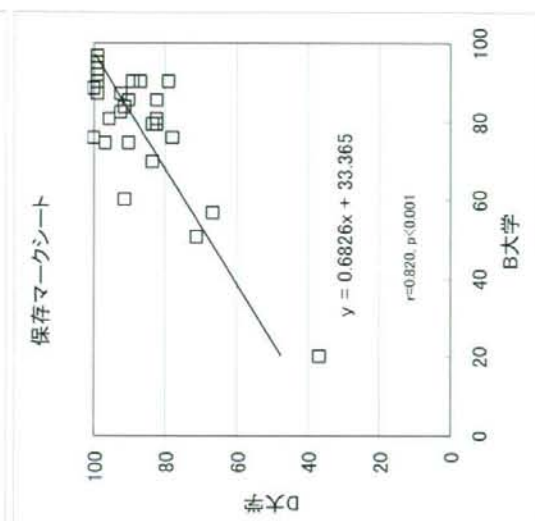
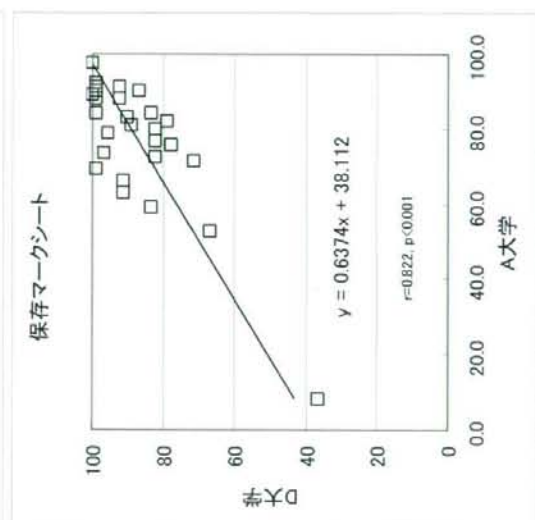
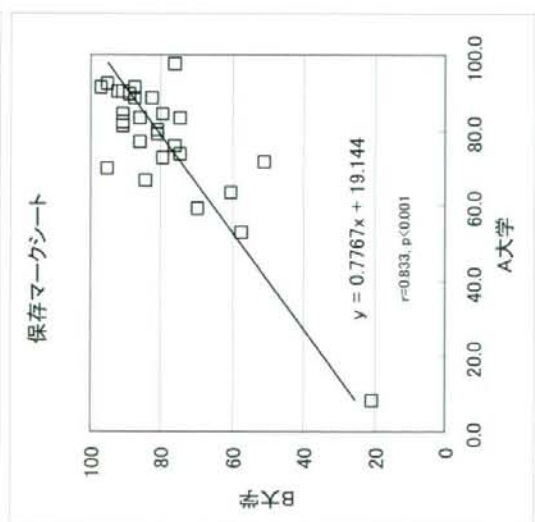
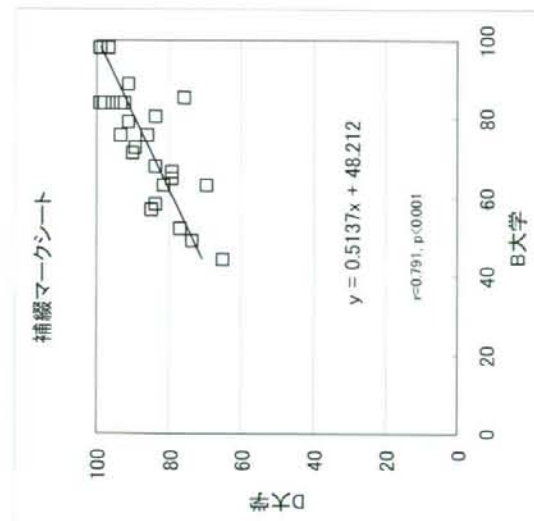
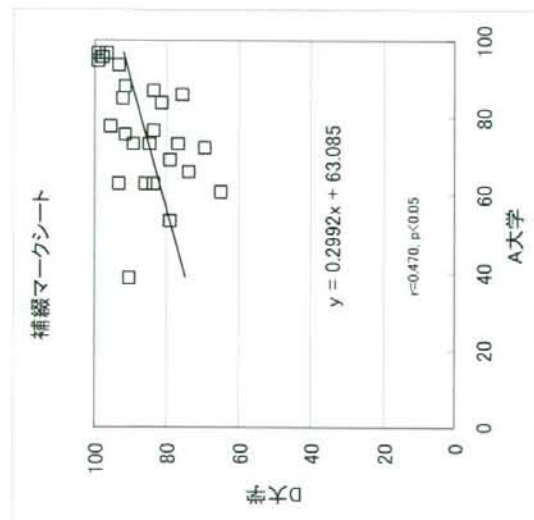
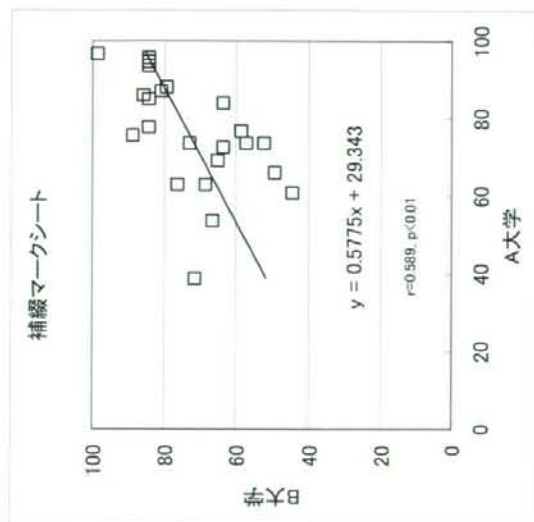


図1.3 A、B、D大学各観式多肢選択試験の正答率の相関

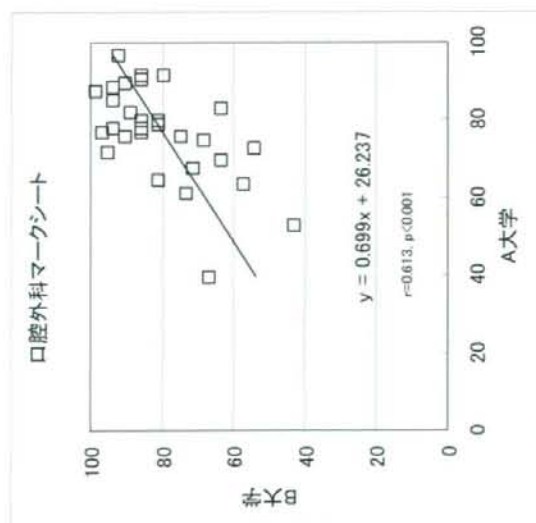
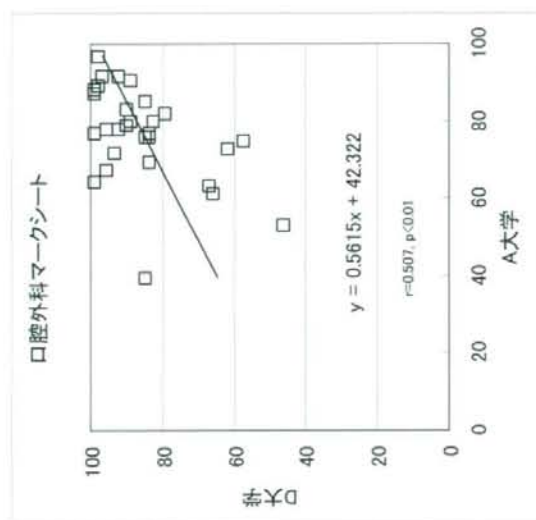
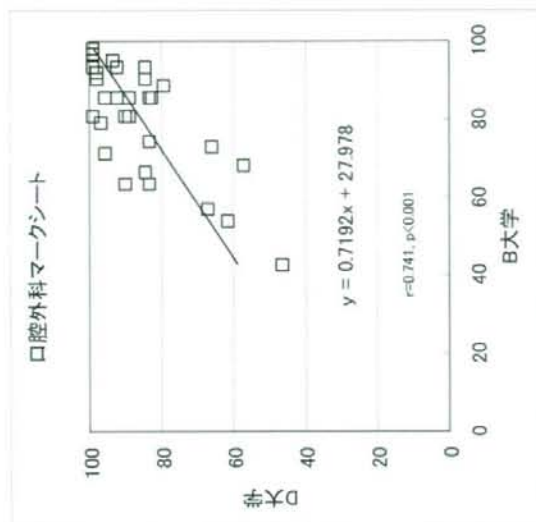


図 1 3 A、B、D 大学各観式多肢選択試験の正答率の相関 つづき

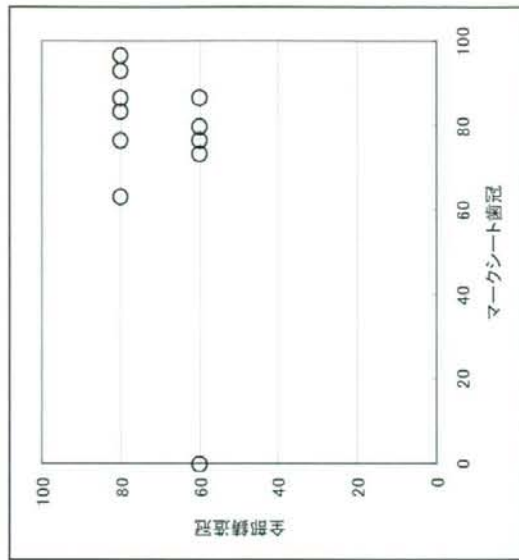
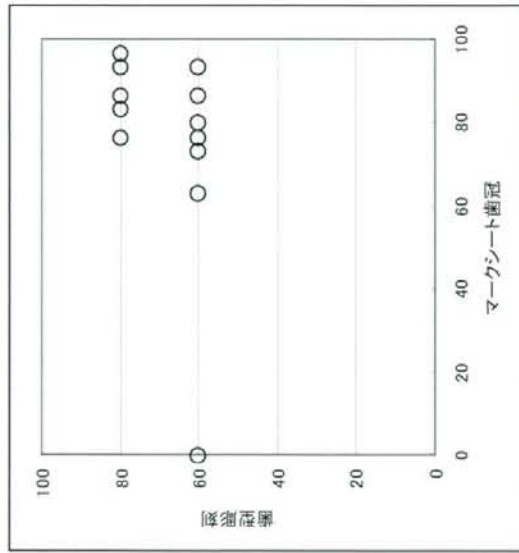
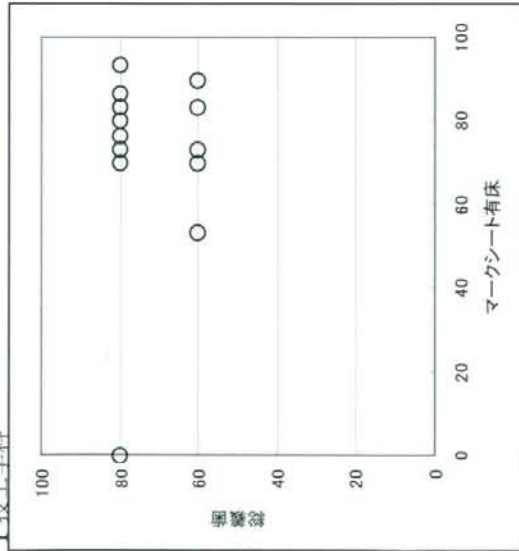
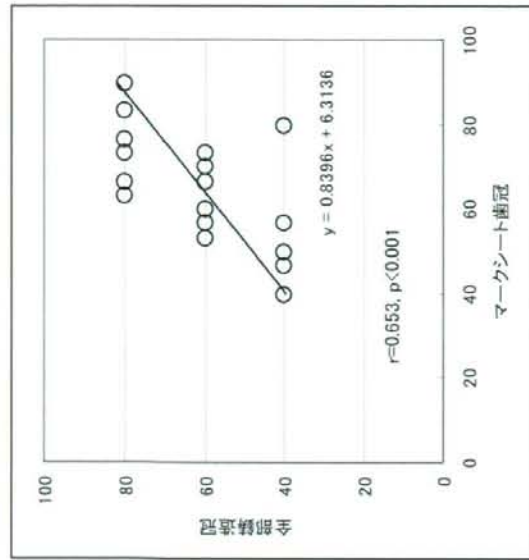
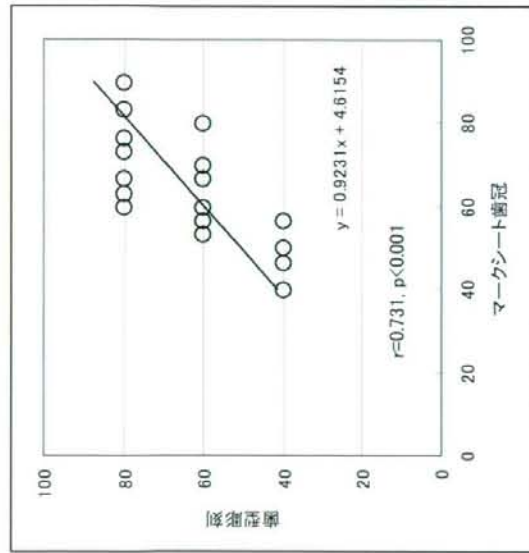
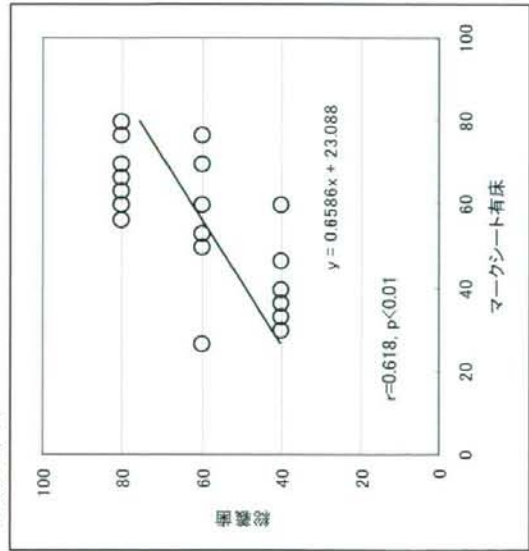


図 1.4 歯科技工学科客観式多肢選択試験と実習成績との相関

Z 技工学科

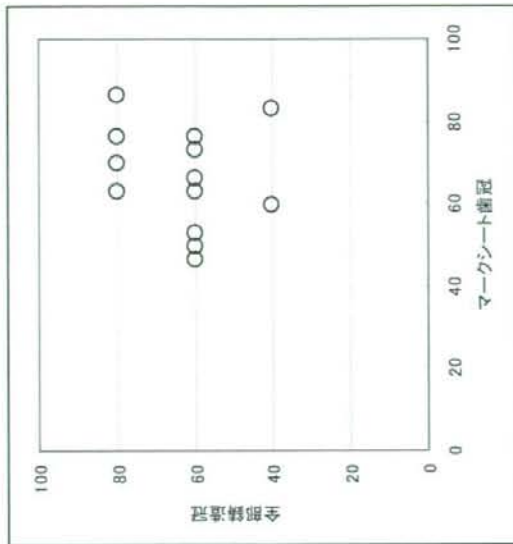
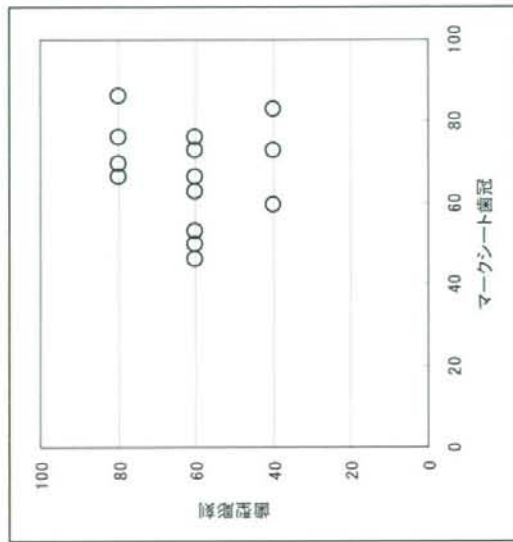
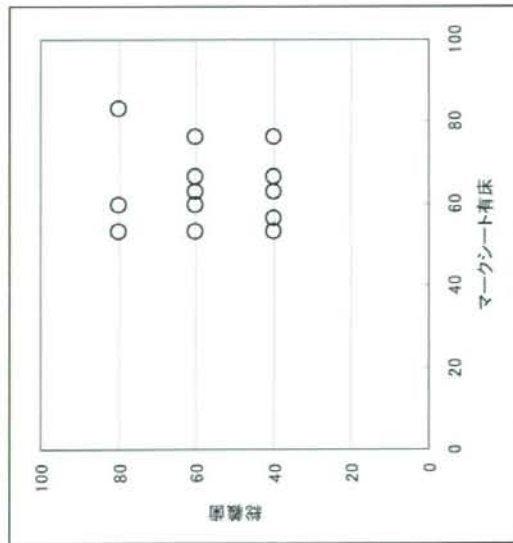


図 1 4 歯科技工学科客観式多肢選択試験と実習成績との相関 つづき

資料1 識別係数の高かった問題、低かった問題を以下に示す。

補綴系 識別係数の高い問題

- 1 4 ワイヤークラスプの利点はどれか。
- a 任意の形態に設計できる。
 - b 少ないアンダーカットを利用できる。
 - c 使用中の変化が少ない。
 - d 異物感が少ない。
 - e 鉤歯の負担が少ない。
- 1 3 リンガルバーの設計で正しいのはどれか。
- a 上縁は歯肉から 2mm 以内にする。
 - b 上縁はコルベン状に形成する。
 - c 下縁は自然移行型にする。
 - d 下縁をリリースする。
 - e 下部にケネディーバーを併設する。

7 48歳の女性。下顎右側臼歯部の冷水痛を主訴として来院した。7年前に装着した⑦6⑤ブリッジの5支台装置が脱離している。初診時の口腔内写真（別冊No.3A）とエックス線写真（別冊No.3B）とを別に示す。

脱離の原因で最も考えられるのはどれか。

- a 支台装置の保持力不足
- b 支台歯の動揺
- c 支台歯の近心傾斜
- d 接着性レジンセメントの使用
- e ポンテックの前装

補綴系 識別係数の低い問題

1 7 59歳の女性。1年前に装着した義歯の人工歯が脱離し来院した。他の部位には異常は認められない。来院時の義歯と人工歯との写真（別冊No.9）を別に示す。

考えられる原因はどれか。2つ選べ。

- a 床用レジン転入タイミングの遅れ
- b 人工歯基底面の流ろう不足
- c 床用レジン填入時の加圧不足
- d 硬質レジン歯の使用
- e 強すぎる咬合接触

25 72歳の男性。咀嚼障害と構音障害とを主訴として来院した。1年前に上顎洞癌を摘出したという。新たに義歯を作成することにした。初診時の口腔内写真(別冊No.15)を別に示す。

義歯設計で正しいのはどれか。

- a 欠損腔内は機能印象を行う。
- b 顎欠損部の咬合堤は削除する。
- c 顎欠損部には人工歯を排列しない。
- d 顎欠損部を栓塞する。
- e 床面積を小さくする。

2 冠連結の目的で誤っているのはどれか。

- a 咬合力の分散
- b 維持力の増強
- c 食片圧入の防止
- d 適合性の向上
- e 支台歯の挺出防止

保存系 識別係数の高い問題

5 40歳の男性。下顎左側小臼歯部の違和感を主訴として来院した。2か月前から、45間に食片の圧入が起こるようになったという。5は電気診に正常に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No.3A)とエックス線写真(別冊No.3B)とを別に示す。

5の処置で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a グラスアイオノマーセメント修復
- b コンポジットレジン修復
- c レジンジャケットクラウン修復
- d メタルインレー修復
- e セラミックインレー修復

24 歯根の外部吸収の原因で誤っているのはどれか。

- a 過剰な矯正力
- b 歯根嚢胞
- c 急性化膿性歯髄炎
- d エナメル上皮腫
- e 外傷

保存系 識別係数の低い問題

3 光重合型コンポジットレジン修復の積層充填法で正しいのはどれか。

- a 異なるシェードのレジンを積層できる。
- b 積層充填に際して光照射時間を短縮できる。
- c 積層する際にはプライマーを介在させる。
- d 積層する際にはボンディングレジンを経在させる。
- e 積層する際には未重合層を除去する。

10 50歳の女性。下顎右側小臼歯部の動揺を主訴として来院した。2年前から気付いていたという。歯周基本治療後、再評価検査を行った。再評価時の口腔内写真(別冊No. 4A、B)とエックス線写真(別冊No. 4C)とを別に示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

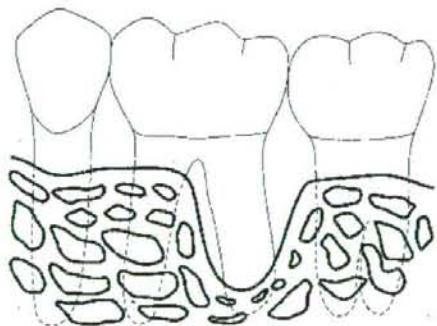
舌側*	5	5	6
歯種	4		
頬側*	5	4	6
動揺度	1		

*歯周ポケットの深さ(mm)

4 に行う処置はどれか。

- a 歯周ポケット搔爬術
- b 新付着術
- c 歯肉切除術
- d フラップ手術
- e GTR法

13 下顎左側第一大臼歯と隣在歯との骨吸収状態を図に示す。



適切な処置はどれか。

- a ルートセパレーション
- b ヘミセクション
- c 自家骨移植術
- d GTR 法
- e ファルカプラスチック

口腔外科系 識別係数の高い問題

25 22歳の女性。左側口底の腫脹を主訴として来院した。腫脹はクルミ大の半球状で軟らかい。同部の穿刺を行ったところ粘稠で透明な液体を吸引した。

考えられるのはどれか。

- a 鰓嚢胞
- b 甲状舌管嚢胞
- c 類皮嚢胞
- d ガマ腫
- e 脂肪腫

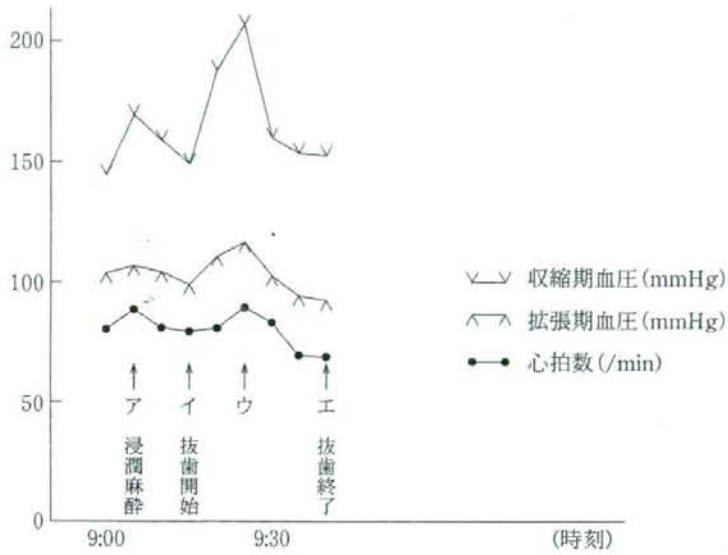
28 60歳の男性。閉口障害を主訴として来院した。昨日から閉口不能と流涎とが認められるようになったという。初診時の側貌写真(別冊 No.12A)とエックス線写真(別冊 No.12B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

- a 筋弛緩薬の投与
- b マイオモニターによる筋訓練
- c 徒手整復
- d オトガイ帽の装着
- e 顎関節授動術

口腔外科系 識別係数の低い問題

6 65歳の男性。上顎右側第一小臼歯の疼痛を主訴として来院した。エピネフリン含有2%塩酸リドカインによる浸潤麻酔下に抜歯を始めたところ、不快感を訴えた。モニタリングの経過を図に示す。



図のウで行った処置はどれか。

- a ハイムリック法の施行
- b 下肢挙上
- c 呼気再呼吸
- d ノルエピネフリン投与
- e カルシウム拮抗薬投与

21 誤っている組合せはどれか。

- a 眼窩底骨折——CT検査
- b 上顎骨骨折——Waters投影法
- c 下顎骨骨体部骨折——パノラマエックス線撮影
- d 頬骨弓骨折——軸方向投影法
- e 筋突起骨折——経頭蓋投影法